

20  
21

INTERNSHIP  
REPORT

インターンシップ  
実施報告書



岩手大学  
理工学部

FACULTY OF SCIENCE  
AND ENGINEERING,  
IWATE UNIVERSITY





## 岩手大学インターンシップ 実施概要

インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省定義）で、岩手大学では下記概要により実施しています。

### 1.目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」（以下「インターンシップ」という）事業は、学生に職場体験させることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ることおよび事業所、地域との連携を図りながら、広く社会に貢献することを目的としています。

### 2.対象学年

この科目の主な対象学年は3年次で、集中学習として計3回の事前・事後指導全てに参加する必要があります。なお、単位認定も実施しており取得できる単位数は1、または2単位です。

### 3.実習期間及び実習内容

実習期間は原則として夏期休業期間中の1週間以上（40時間）です。

1週間（40時間）の実習で1単位、2週間以上（80時間）の実習で2単位が取得できます。

実習内容は基本的に各事業所等が作成したカリキュラムによります。

# 20 21

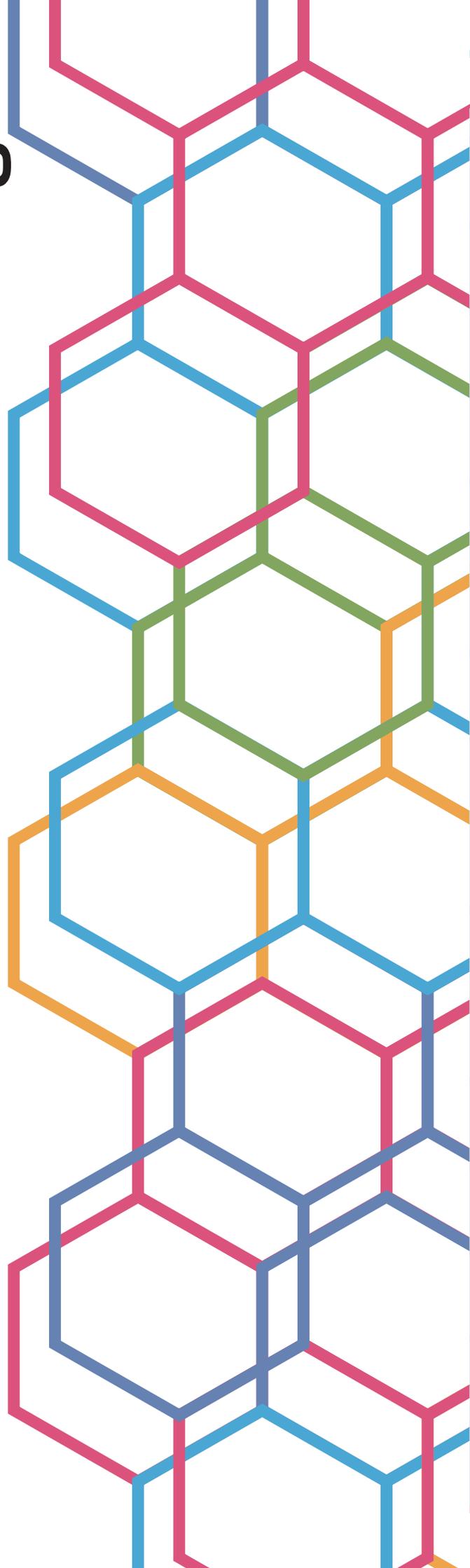
## INTERNSHIP REPORT

インターンシップ  
実施報告書

FACULTY OF SCIENCE AND  
ENGINEERING  
IWATE UNIVERSITY

### ▶CONTENTS

物理・材料理工学科	数理・物理コース	2
物理・材料理工学科	マテリアルコース	3
システム創成工学科	電気電子通信コース	4
システム創成工学科	知能・メディア情報コース	5
システム創成工学科	機械科学コース	6
システム創成工学科	社会基盤・環境コース	7
2021 年度インターンシップ受け入れ事業所実績一覧		8
事業所からの Q&A		8
事業所実績等内訳		9
理工学部インターンシップ実施要領		10
理工学部インターンシップのながれ		11
学生アンケート		12
インターンシップ実施委員名簿		13



## ● INTERNSHIP REPORT



## インターンシップ実習報告

Pick Up

## 研究に対する考え方や 自分の適正について考えた

佐々木 凛

【期 間】

令和3年10月18日(月)～  
10月29日(金)〈10日間〉

【実習先】

自然科学研究機構  
核融合科学研究所

私は10月18日から10月29日までの間、自然科学研究機構核融合科学研究所様の夏季短期インターンシップに参加させていただきました。

数理・物理コースの4年次に行われる専門英語セミナーで宇宙での元素合成についての教科書を読み、核融合に興味を持ちました。そこから、核融合発電の実現に向けて研究を進めている核融合科学研究所様をインターンシップ先として選ばせていただきました。

今回のインターンシップでは担当教員である鈴木助教の研究の一部を体験しました。鈴木助教の行っている研究は、研究所が所有している大型ヘリカル装置のプラズマを利用して、新規の多価イオンの元素スペクトルを発見する、という内容です。その中で、今回私は、実験で得られたデータの波長校正する作業を体験させていただきました。得られたデータは、横軸である波長が実験することに異なるので、ピークセル値に変換することで、有用なデータを得ることができるといふものです。私は、データのスペクトルのピーク検出を用いて、得られたデータを三次関数で多項式フィッティングを行いました。まず、データベース、過去の校正済のデータから一致する多価イオンのスペクトルを選択する同定という

作業を行います。ピーク検出したピークセル値と、同定したスペクトルの波長をもとに三次関数で多項式フィッティングを行い、誤差を求めます。その誤差が目標の値まで近づくまでこの校正を繰り返します。校正する際に特に大変だったのは、同定の作業でした。一見単純そうに見えますが、同定を間違えると、フィッティングが上手くいきません。元素スペクトルの放射の強弱や、遷移前後のスピン状態など同定する際に判断材料となる知識が必要であると感じました。さらに、より強く放射されているデータを選択するなど同定をする時には広い視点を持つことが大切であると感じました。私は、校正の作業をすることが初めてだったということもあって、視野が狭くなりがちでした。作業を繰り返していくことで、自分自身にも同定に関する判断材料が増え、幅広い視野で校正を進めることができました。

研究をするうえで、快適な環境作りを心がけることが大切だということを学びました。同じ作業を効率的にこなすためには、ただがむしゃらに研究に取り組むのではなく、集中力の持続するようにオンとオフを切り替えて研究に取り組むことが、長く効率的に研究をすることができるのだとこのインターンシップから考えました。

10日間の実習を通して、自分の知識不足を感じることも多くありましたが、研究に対する考え方や、自分の適性について考えることができました。今回の実習で得た知識や経験を今後の研究にいかしていきたいと思えます。

最後になりますが、非常に多忙で社会情勢上困難があったにも関わらず、夏季短期インターンシップを行って、ご指導してくださった核融合科学研究所の皆様にご場をお借りして感謝を申し上げます。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

ものづくりを通して  
自身の成長を促進させる

むらた  
村田 ゆりな

【期間】

令和3年8月30日(月)～  
9月10日(金)〈10日間〉

【実習先】

地方独立行政法人  
岩手県工業技術センター

インターンシップ実習報告

私は今回8月30日から9月10日までの10日間、岩手県工業技術センターの素形材プロセス技術部にインターンシップ実習をさせていただきました。

岩手県工業技術センターは県内のものづくりに関わる企業等への技術支援を中心に活躍されていて、素形材プロセス技術部では主に鋳造、機械加工、溶接・溶射、金属熱処理、精密測定に関わる技術相談や試験研究を行っています。私は昔からものづくりが好きで将来は地元である岩手の県内企業で研究開発に携わりたいという漠然とした思いから、岩手県のものづくり企業の支援に関連した機関に興味を持ちインターンシップ先を決定しました。

実習の内容は主に、施設見学、3Dデジタルデザイン装置の操作、電子ビーム金属積層造形システムを用いた製品づくりでした。1日目は設備機器や実験装置を一通り見学し組織の概要説明を受けました。岩手県工業技術センターでは材料や電子情報分野のみならず食品や醸造まで幅広い分野の研究開発が行われています。ちょうど南部鉄器の製造工程の撮影に遭遇し、迫力のある鋳込みや型出しを間近で見学することができとても貴重な経験になりました。

2～4日目は3次元立体自由形状製品を非接触でスキャンし、形状検査やDesignXを使ってモデリングを体験しました。直接製品を見ると不具合なく感じても、3Dビューアを通して見ることでCADデータとの大きなズレや傷が一目でわかるので形状検査の重要性を感じました。またカメラやスキャナーを調整したりソフトの起動を待ったりする合間に他の作業を並行して進めるようご指導いただき、改めて研究現場においては時間をいかに有効的に使うかが大切なのだと学びました。

5日目からは最終目標である金属積層造形装置による製品づくりに向けて何を作るか、デザインはどうするかなどを検討しました。金属積層造形装置はいわゆる金属3Dプリンタのことで、電子ビームやレーザービームを照射し3Dモデルの断面形状を溶融・凝固させて積層する装置です。今回は日本でも数少ない電子ビーム型の装置を実際に使わせていただき、格子構造が綺麗に出るという特徴を活かしてドーム型の置物と写真立てを製作しました。3Dプリンタと聞くとデータがあれば何でもすぐに造型できる魔法のような装置をイメージしてしまいましたが、実際には多数のソフトを使って3Dデータを作成する必要があったり、サポート設計をする際に取り外

しを考慮して付与したりといくつもの大変な作業工程があるのだと実感しました。  
今回のインターンシップを通して金属造型や鋳造への関心が高まり、自身の成長を促進させるための良い機会とすることが出来ました。最後になりましたが、お忙しい中温かいご指導をしてくださった岩手県工業技術センター素形材プロセス技術部の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## ● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

通信機器の過程を知り  
普段は気づかない良さを知る君澤 凌  
きみさわ りょう

【期間】

令和3年9月6日(月)～  
9月10日(金)〈5日間〉

【実習先】

大井電気株式会社  
水沢製作所

## インターンシップ実習報告

今回私は、9月6日から9月10日の一週間、大井電気株式会社水沢製作所にてインターンシップをさせていただきました。

今回お伺いした大井電気株式会社は、通信機器を中心に設計・開発・製造及び販売を行っています。高校が工業高校だったことや、資格取得の為に勉強したこともあり、電子機器や電気機器については知識がありました。通信機器についてはあまり深く触れたことが無かったので興味を持ち、今回のインターンシップ事業先を選びました。

実習内容としては、OPTネットワーク開発部、IoT開発部、社会インフラ開発部、ソフトウェア2部、機構設計部、製造部、品質管理部の各部門を全体的に体験させていただきました。OPTネットワーク開発部ではODN1630という通信機器の不良調査とオシロスコープを用いた周波数の調査を行いました。ODN1630についてや、通信がどのように行

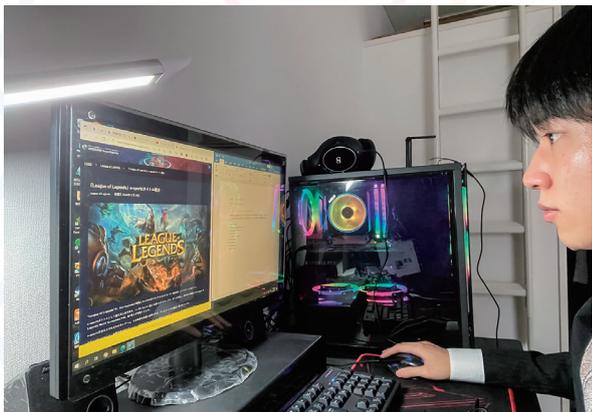
われているのかなど、理解を深めることが出来ました。IoT開発部でMicrowaveofficeを用いてノッチフィルタの回路図作成やチューニングと最適化などを行いました。社会インフラ開発部では部品の発注作業を行いました。基本PC作業がメインだったので、PCを使うのがあまり得意ではないので慣れて行くことと思えました。ソフトウェア2部ではプログラミングを行いました。通信機器にはどんなプログラムが組まれているのかなどを学ぶことが出来たのでとても貴重な体験が出来ました。機構設計部では3DCADを用いた部品の図の作成を行いました。3DCADを用いた製図は初めてだったので最初は少し苦労しましたが、きちんと部品の形を完成させることが出来たので良かったです。製造部では午前と午後に分けて作業内容を分け、午前は製品に貼り付けるラベルの作成、部品の仕上げを行いました。午後は自動ハンダ付け機によってハンダ付けされた基板の受け取りと、収納と、ケーブルの加工を行いました。品質管理部では通信制御装置の通信の送受信と通話が問題無く行えるかどうかの

試験を行いました。普段使われている通信機器がどれだけ品質が良いかを知ることが出来ました。今回のインターンシップを通して、通信機器がどのように設計・製造され販売までされているのか、その過程を詳しく知ることが出来ました。普段の生活や大学の講義などでは知ることが出来ない貴重な体験をすることが出来ました。非常に充実した一週間となりました。

最後になりますが、お忙しい中貴重な時間を割いてご指導してくださった大井電気株式会社の皆様から感謝申し上げます。ありがとうございました。



● INTERNSHIP REPORT



今回私は、8月10日〜8月23日までの間、東京都にあるエム・ビー・エーインターナショナル株式会社  
プログラミングコースのテレワークインターンシップ  
に参加させていただきました。今回のインターンシ  
ップ事業先を選んだ理由として、1つ目は私はゲーム・  
IT業界に  
とても興味  
があり、プ  
ログラマー  
として将来  
働いていけ  
るかの確認  
することが  
できる（啓  
発的経験）  
と考えたか  
らです。2  
つ目は自分  
でゲームや

アプリケーションで今回  
のインターンシ  
ップの目標（やりたい職業の体験を行う）や今後の流  
れを確認し、その後ゲームプログラマーがITプログラ  
マーかを自分で選択します。私は、ゲームプログラ  
マーでHTML、JavaScriptで就活をテーマにした着  
せ替えゲームを作成することにしました。また、開発  
物以外に自分でテーマを決め、面白い記事と動画の  
作成もあります。私は「2021年トップ10の必見ゲー  
ム」をテーマに決めました。午後からは、1本目の記  
事・動画の作成でした。初めてだったため、自分が紹  
介したいゲームの魅力を読者にうまく伝えられるよう  
にかなり苦労しました。  
2日目からは、朝礼でビジネス書の音読とPREP  
法（内容の結論、理由、具体例、結論をまとめる）  
の練習がありました。その後、記事と動画作成の作  
業に入り、初日と比べ記事の文章の作成と動画を撮  
影するときよりスムーズに話すことができるようにな  
り、短い時間で仕上げることができました。午後は、  
開発作業になります。私は、始めに残りの9日間で

開発物が完成できるようにスケジュールを作りました。  
そして、今回は作るうとしてる着せ替えゲームに  
必要となるキャラクターやアイテムなどのイラストを  
簡単に作成し、実際にプログラムを作ってみました。  
HTMLとJavaScriptでゲームを作るのは初体験だっ  
たため、始めは作ったプログラムがうまく動かなか  
ったり、エラーが出たりして難しかったです。今回の開  
発は個人作業でしたため、プログラムでわからないこ  
とは自分で調べていくことになりました。一つひとつの  
プログラムを調べ、それを理解し自分のゲームに活  
用できるように書き直し少しずつプログラムを作っ  
ていきました。また、4日目に会社の方で開発した「脱  
出忍者」ゲームのテストプレイを体験する機会があ  
りました。  
今回のインターンシップで、一人でのゲーム開発を  
実際に体験することで、私は、今の知識でゲームやア  
プリを開発することは難しいことだと感じました。ま  
た、自分で調べながらプログラムを作っていくことで、  
たくさんの知識が身に付けられました。もう一つは、  
何日間もかかる長い作業なので、毎日作業の区切り  
が重要になります。次の日に、スムーズに作業ができ  
るように、区切りのいいところで終わる。また、作  
ったプログラムに記述文を書くことも大切と感じまし  
た。  
最後になりますが、お忙しい中実習先として受け  
入れご指導してくださったエム・ビー・エーインター  
ナショナル株式会社の皆様に心から感謝申し上げます。  
ありがとうございました。

Pick Up

プログラマーとしての挑戦と  
実際に大切なことを学ぶ

ちろんろん  
屈龍龍

【期間】  
令和3年8月10日(火)～  
8月23日(月)〈10日間〉  
【実習先】  
エム・ビー・エー  
インターナショナル  
株式会社

インターンシップ実習報告

今回は、8月10日〜8月23日までの間、東京都

アプリケーションを作成し、評価してもらえ  
る機会があるか  
らです。

初日は、オリエンテーションで今回のインターンシ  
ップの目標（やりたい職業の体験を行う）や今後の流  
れを確認し、その後ゲームプログラマーがITプログラ  
マーかを自分で選択します。私は、ゲームプログラ  
マーでHTML、JavaScriptで就活をテーマにした着  
せ替えゲームを作成することにしました。また、開発  
物以外に自分でテーマを決め、面白い記事と動画の  
作成もあります。私は「2021年トップ10の必見ゲー  
ム」をテーマに決めました。午後からは、1本目の記  
事・動画の作成でした。初めてだったため、自分が紹  
介したいゲームの魅力を読者にうまく伝えられるよう  
にかなり苦労しました。

今回のインターンシップで、一人でのゲーム開発を  
実際に体験することで、私は、今の知識でゲームやア  
プリを開発することは難しいことだと感じました。ま  
た、自分で調べながらプログラムを作っていくことで、  
たくさんの知識が身に付けられました。もう一つは、  
何日間もかかる長い作業なので、毎日作業の区切り  
が重要になります。次の日に、スムーズに作業ができ  
るように、区切りのいいところで終わる。また、作  
ったプログラムに記述文を書くことも大切と感じまし  
た。

## ● INTERNSHIP REPORT



Pick Up

自分ができるかどうかではなく  
最適な解決法なのか、が大事

たかはし  
高橋  
慧

【期間】

令和3年10月4日(月)～  
10月15日(金)〈10日間〉

【実習先】

アキュイティー株式会社

## インターンシップ実習報告

私は10/4～10/15の内10日間、東京都渋谷区にあるアキュイティー株式会社のインターンシップに参加させていただきました。アキュイティー株式会社では、計測機器を使用して事象をデータ化(数値化)することで、様々な問題の解決、より良い暮らしを作ることを目標としています。具体的には、モーションキャプチャシステムを使って生産ラインの作業者の行動を記録し作業ミスを防ぐシステムの構築、AI画像処理技術を使って検品作業自動化システムの開発

等を行っていました。

今回私が行ったことは、「半球カメラで取得した映像から数字を読み取る」というものです。この技術は、倉庫で無人搬送機が自動で走行して作業を行うというシステムを作成するときに、搬送機を管理、制御するために必要となります。アキュイティー様では今までARマーカーを使用して搬送機の判別をしようとしていましたが、半球カメラで取得した映像は画面の端に行くにつれ映像が歪んでしまい、正確に判別するためにマーカーのサイズが大きくなりすぎてしまったりという問題点がありました。そこで、ARマーカーではなく印刷した数字を搬送機に貼ることで数字を認識し、搬送機の判別を行うことを目指しました。

まず、OCR(光学文字認識)と呼ばれる手法を用いて数字の判別を行い、精度検証を行いました。その結果、ARマーカーと比べて必要なサイズは小さくなりましたが、数字認識の前に映像の歪補正を行い、画像処理フィルタを複数回適用する必要があるため、リアルタイムでの処理が難しく、実用を使うこ

とは難しいという結果になりました。

次に、機械学習を用いて数字の判別を行うAI-OCR(人工知能光学文字認識)手法での数字認識を試みました。機械学習による数字判別を行うためには、大量の数字の画像を用意して、判別モデルを自分で作成する必要があります。Pythonでノイズや回転、ぼかし等の処理を加えた、異なる画像を合計6万枚程度用意して複数モデルを作成し、数字判別の精度検証を行いました。

その結果、ARマーカーやOCRに比べて必要なサイズは非常に小さくなり、OCRでは読み取れなかった数字も読み取ることが可能となりました。しかし、OCRで問題なく読めていた数字が時々読めなくなるという問題は、最後まで解決することが出来ませんでした。AIを用いているため、どのような考え方や特徴をもとに数字の読み取りを行っているのかは明確にわからず、具体的な対処法を立てることが出来ません。そのためとあえず数字判別モデルをたくさん作るしかなかったのですが、モデルを1つ作成するのにも3～5時間程度かかり、思うような結果が出せないままインターンシップが終了しました。

今回のインターンシップで、多くの新しい技術を学ぶことが出来ました。今までは自分の持っている技術を使って問題解決をしようとしていたのですが、「自分ができるかどうか」ではなく、「最適な解決法なのか」を大切にする必要があると学びました。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

より良いまちを作るためには  
プロセスに則ることが大事

こむろ 祐人  
小室 祐人

【期間】  
令和3年8月16日～8月20日(5日間)  
令和3年8月23日～8月27日(5日間)  
【実習先】  
パシフィックコンサルタンツ  
株式会社東北支社  
大日本コンサルタント  
株式会社東北支社

インターンシップ実習報告

私は、パシフィックコンサルタンツ株式会社と大日本コンサルタント株式会社でインターンシップを行いました。2社のインターンシップを通して、建設コンサルタントでの職務内容や必要となる考え方を学び、今後身につけるべき知識や技能は何かを考えることができました。

パシフィックコンサルタンツ株式会社では、住宅地におけるエリアマネジメントの事例検索とそれを基にした住宅地におけるエリアマネジメント導入の効果整理を行い、技術交流会の際に成果報告をさせて頂きました。

エリアマネジメントという用語はインターンシップで初めて聞き、最初はどのようなものがよく分かりませんでした。しかし、事例検索や担当の方とのディスカッションを通して、エリアマネジメントが地域の魅力や価値の向上のために民間主体でまちをつくり育てていくものであることが分かりました。

また事例検索から、住宅地のエリアマネジメントで重要な事項には、住民主体で専門家が伴走者として事業を実施すること、住民組織の基盤が整っていること、実行までのプロセスが「知る・学ぶ→考える↓

実行する↓振り返る」の繰り返しであることの3点が考察できました。

これらの業務を通して、より良いまちをつくるためには専門家が適切に関与しながら一つの定まったプロセスに則ることが大切だと気づかされました。またこの考え方はまちを作るときだけでなく、組織の動かすときなどの別の場面でも重要になると思いました。

大日本コンサルタント株式会社では、都市計画業務、道路設計業務、交通系業務の各業務について幅広い講義と演習を行い、最後に至の皆さんの前で成果報告をさせて頂きました。

都市計画業務の演習では、大学周辺の地域の強みと弱みを確認し、さらに良いまちにするための改善策を提示しました。道路設計業務の演習では、道路設計する上でのコントロールポイントの整理や路線選定を行いました。交通系業務の演習では、実際の交差点での交通事故・交通障害の分析と対策の提言を行いました。

これらの業務を通して、建設コンサルタントでの業務では一つの事業に多くの人が関与しており、コミュニケーション能力や様々な意見や価値観への統合力・イメージ力が重要であると考えさせられました。また、様々な観点から物事を考えたりすることが多くあり、

そのために幅広い知識や経験が重要であるとも考えさせられました。

2社でのインターンシップを通して、建設コンサルタント業での仕事に必要な知識や技能について考えることができました。今後、機会があれば幅広い経験や知識を得るためにも施工業者や公務員でのインターンシップも経験したいと考えました。

最後に、多忙かつ社会情勢上困難なことがあったにも関わらずインターンシップを受け入れてくださったパシフィックコンサルタンツ株式会社東北支社東北支社、大日本コンサルタント株式会社東北支社地域交通計画室の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 2021 年度インターンシップ 受け入れ事業所実績一覧 (五十音順)

事業所名	所在地	期間	実習生数	コース名
株式会社アイカマス・ラボ	盛岡市	5 日間	1	機械科学
アキューティー株式会社	東京都	10 日間	1	機械科学
地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	盛岡市	10 日間	2	マテリアル、機械科学
エム・ビー・エーインターナショナル株式会社	東京都	10 日間	1	知能・メディア情報
大井電気株式会社 水沢製作所	奥州市	5 日間	1	電気電子通信
三和工機株式会社	東京都	5 日間	1	機械科学
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所	岐阜県	10 日間	1	数理・物理
大日本コンサルタント株式会社 東北支社	宮城県	5 日間	1	社会基盤・環境
パシフィックコンサルタンツ株式会社 東北支社	宮城県	5 日間	1	社会基盤・環境
株式会社山元	釜石市	10 日間	1	社会基盤・環境
国立研究開発法人 物質・材料研究機構 (NIMS)	茨城県	51 日間	1	マテリアル
事業所数 計 11 事業所 延べ実習生数 計 12 名				

## 事業所からの Q&A

**Q** 各学科の授業科目の学習内容を確認したいのですが？

**A** 大学のホームページに各授業科目のシラバスがありますので、そちらでご確認ください。  
大学シラバスサイト：  
<http://www.se.iwate-u.ac.jp/syllabus>

**Q** 学生との雇用関係はありませんが、受け入れた学生自身の傷害事故・学生の過失による事業所・第三者への加害事故による補償はどのようになっていますか？

**A** 学生自身の傷害事故については、基本的に自己責任との観点から、事業所の過失の有無とは無関係に一定の保険金が支払われる傷害保険等の加入を指導し、大学で加入済みの確認をしています。また、必要に応じて事業所側で賠償責任に備え保険に加入することはかまいません。なお、大学で加入指導している学研災・賠償責任保険の補償と保険料は下記の表のとおりです。

**Q** 実習生と協議し実習期間を事前に調整しましたが、開始日、実習期間などは変更してもよろしいでしょうか。

**A** 大学・実習生・受入事業所間で取り交わした「岩手大学理工学部インターンシッププログラム覚書」には、実務を経験する期間の具体的な日程は明記されていませんので、開始日、実習期間の延長なども三者で調整いただければ結構です。

### 【学研災・賠償責任保険の補償と保険料の例】 (2021 年度現在)

※詳細は大学 HP から確認して下さい。

#### 名称/学生教育研究災害傷害保険 (1,200 万円コース)

死亡保証金	1,200 万円 (正課中・学校行事中の場合)
後遺障害保険金	程度により 72 ~ 1,800 万円 (正課中・学校行事中の場合)
医療保険金	治療日数 (1 日目~) により、3,000 円 ~ 300,000 円 (正課中・学校行事中の場合は 1 日以上が対象)
	入院加算 1 日につき 4,000 円 (180 日限度)
保険料	年額 820 円 2 年間 1,440 円 ※付帯特約を含む。

#### 名称/学研災付帯賠償責任保険

(※こちらの保険は学生教育研究災害傷害保険の加入が必須条件です)

賠償責任保険金	対人賠償と対物賠償合わせて 1 事故につき 1 億円限度
対象・保険料	A コース 正課、学校行事など (インターンシップを含む) (年額 340 円)



# 事業所実績等内訳

実習場所別事業所数  
(都道府県別)  
計11事業所



実習場所別実習生数  
(都道府県別)  
計12名  
うち2名は2事業所で実習



実習場所別事業所数 (県内市町村別) 計3事業所



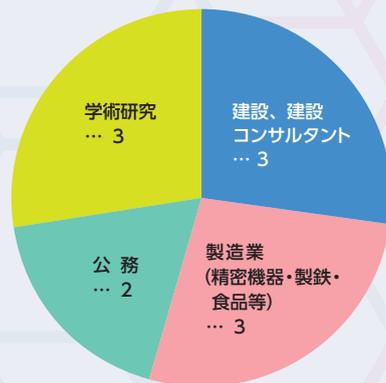
実習場所別実習生数 (県内市町村別) 計5名



コース別実習生数 (実数) 計10名



業種別事業所数 計11事業所





事前にインターンシップをきちんと理解してもらい、  
事後もしっかり指導を行っています

## 岩手大学工学部インターンシップ実施要領

インターンシップ実施委員会

### 1 目的

岩手大学工学部「社会体験学習」（以下「インターンシップ」という）事業は、学生に就業体験をさせることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ること及び事業所、地域との連携を図りながら、広く社会貢献の基盤を作ることとする。

### 2 対象学年等

この事業は3年次対象の集中学習とし、単位数は1～2単位とする。  
なお、単位認定は1週間(40時間)を1単位、2週間(80時間)を2単位とし、2単位を限度とする。  
また、大学院生の受講を認める。

### 3 実施期間

インターンシップは、主として夏季休業期間に実施する。

### 4 受入事業所の確保

インターンシップにおける受入事業所の確保のために4月上旬に受け入れの依頼を行い、受入条件を確認の上、事業参加への了承を得る。

### 5 受入事業所の公表

受入事業所の内容・条件(受入機関の名称、業務、住所、受入期間、学生のインターンシップ内容、交通・宿泊施設の有無等)は5月中に公表する。  
なお、実習中の報酬については原則無報酬として扱う。

### 6 他機関によるインターンシップ事業への参加

本事業以外に実施されている他機関の主催するインターンシップ事業に参加することができる。  
ただし、単位認定に関する申請等は本事業の実施要領に基づき対処する。

### 7 自己開拓事業所の決定

学生が自己開拓した受入事業所を希望した場合は、委員会が実習体制、カリキュラムの内容を調査し、適否を判断する。

### 8 履修申告

インターンシップ事業に参加を希望し、単位認定を受けるために、希望学生は授業科目「社会体験学習」を申し込まなければならない。

### 9 受入事業所の調整及び決定

受入事業所の公表により参加希望学生から提出された志望理由及び事業所の受入条件を委員会で調整の上、インターンシップ派遣学生を決定し、6月中に発表する。  
なお、受入期間及び受入事業所における実施カリキュラムの内容の決定は随時調整することができる。

### 10 覚書の取り交わし

インターンシップ派遣学生、受入事業所及び大学との三者で覚書を取り交わし、実施形態・実施方法を確認する。また、実習生紹介書(履歴書)を受入事業所に提供する。  
なお、他機関によるインターンシップ事業での参加学生の場合は理工学部インターンシップ事業の覚書等を省略することができる。

### 11 就業体験中における事故・損害、機密保持

就業体験中に万が一発生する事故等に備えて、インターンシップ参加学生の傷害・損害等の保険加入を指導し、派遣確定後は大学で加入の確認を行い、リスクの解消に対応する。

なお、保険の種類として学生自身が傷害を負う場合及び学生が受入事業所や第三者に損害を与える場合に対応できる保険とする。(委員会では「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」を推奨する。)

また、受入事業所との覚書によって、守秘義務を負うことを確認する。

### 12 事前指導

インターンシップ希望学生は事前指導を受講しなければならない。事前指導ではインターンシップの目的・効果、安全教育、職業意識と心構え、ビジネスマナー、業界及び事業所の研究、履修指導、保険加入等の指導及び学習に関して数回に分けて行い、インターンシップの効果上げる。

なお、事前指導の内容は委員会で決める。

### 13 インターンシップ実施前の打ち合わせ

インターンシップ参加学生は実施前に受入事業所との打ち合わせを行い、インターンシップの実施に支障が無いように調整する。

### 14 インターンシップの実施期間の体制

インターンシップが学外の受入事業所で行われること、特に運営が大学等の休業期間中に実施されることから、非常時の連絡体制を整備する。

### 15 事業所訪問

インターンシップ実施委員会委員は実習を円滑に進行させるため、また、大学と事業所間の連携活動として、インターンシップ期間中に事業所を訪問し、事業のフォローアップを図る。

### 16 就業体験の評価・報告

受入事業所では実習に対する学生の態度、テーマへのアプローチについての評価・報告を行い、大学では学生成績評価の総合判定資料とする。

また、インターンシップ実施中の学生は実習日報を作成することにより設定テーマの進捗状況を確認し、目標達成度を判断すること。最後に自己評価を含めた実習レポートを作成し、大学に提出する。

### 17 事後指導

インターンシップ終了後、実習で得たものを学生が互いに認識し確認しあうために、学生間のディスカッション、自己評価及び今後の学習に必要な課題提出等の指導を行う。

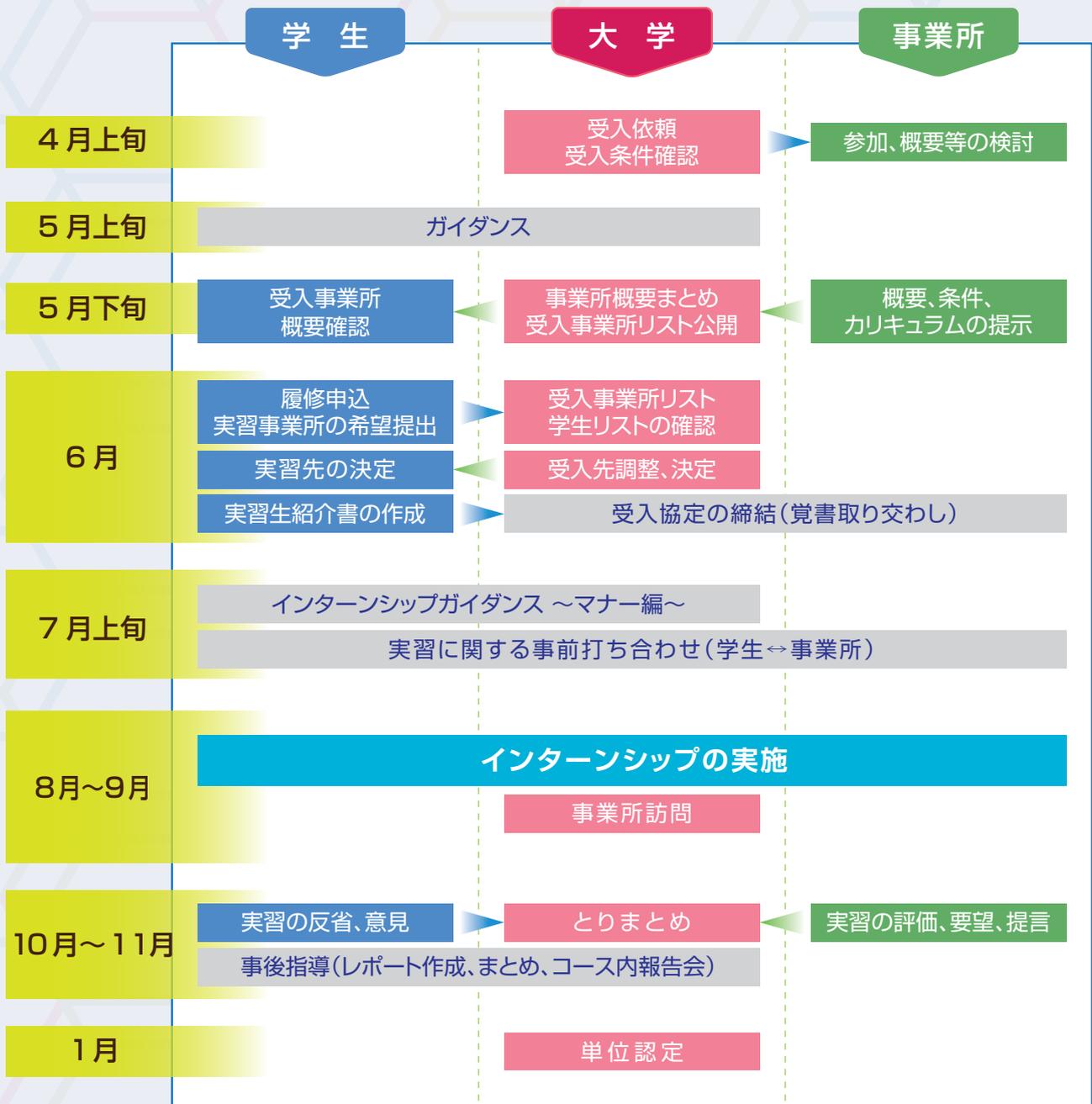
### 18 単位認定

単位の認定は、事前指導・事後指導・報告会への出席状況及び事業所からの報告、学生からの実習日報及び実習レポートにより総合判定する。

### 19 その他

この事業の実施に関してその他必要な事項がある場合は、インターンシップ実施委員会で協議する。

# 理工学部 インターンシップの流れ



## 学生のメリット

- 事業所の現場における実習を通じて、自主性、独創性、実社会での適応力を養うことができる。
- 実際の現場に触れることで、学問・研究について新たな学習意欲が喚起される。
- 事業所に対する理解が深まる。
- 自分にあった職業を選ぶ能力が身に付く。
- 将来に対して同様の目的意識を持っている仲間と出会うことができる。

## 大学のメリット

- 実践的な人材を実社会に送ることができる。
- 座学だけでなく実践的な教育カリキュラムを持つことができる。
- 教育改善・充実ができる。産業界のニーズを知り、教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所に対する理解の促進、連携が深まる。
- 学生の進路指導において、ミスマッチングを防ぐことができる。

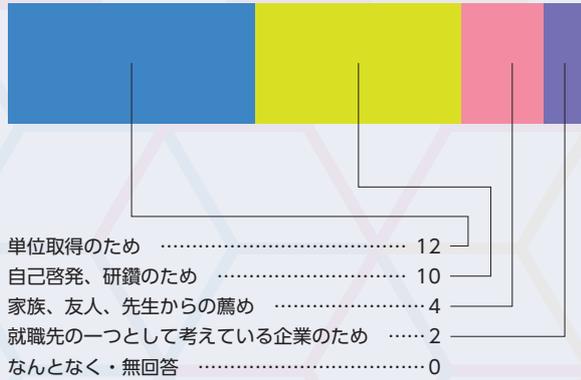
## 受け入れ事業所のメリット

- 社員等が学生を指導することによって意識が向上し、社員の研修になる。
- 学生との意見交換を通じ、新鮮な視点、新たなネットワークを得ることができる。
- 自社に適した学生と、つながりを持つことができる。
- 新卒採用の選考において参考になる(ミスマッチングを防げる)。
- 大学(教員等)との連携が深まる。研究ニーズを大学へ反映させることができる(卒論、修論テーマ、共同研究への発展など)。
- 大学教育に産業界等のニーズを反映させることができる。教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所についての理解が促進され、学生を通してPR効果が期待できる。
- 実践的な人材育成という社会貢献ができる。



インターンシップ実習に参加した学生 12 名（延べ人数）を対象にアンケートを実施しました。

●インターンシップ受講の動機（複数回答可）



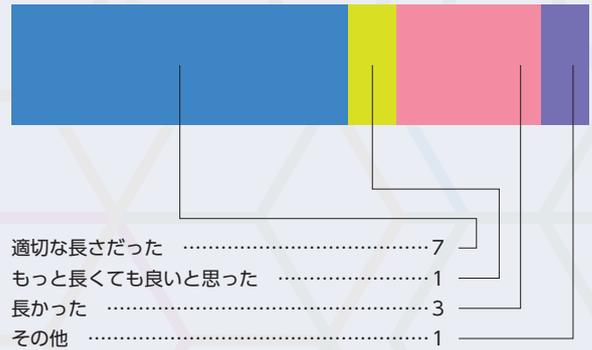
●研修先の受入れ体制は整っていたか



●受け入れ先の対応に対する満足度



●研修期間について



●実習内容に対する満足度



●今回参加して得るものがあったか



## 2021年度 理工学部インターンシップ実施委員名簿

	コース	氏名
委員長	マテリアルコース	大柳 洸一
副委員長	数理・物理コース	根岸 健太郎
編集委員	生命コース	金子 武人
委員	化学コース	塚本 匡
	電気電子通信コース	大坊 真洋
	知能・メディア情報コース	張 建偉
	機械科学コース	小野寺 英輝
	社会基盤・環境コース	大河原 正文
	教務委員	明石 卓也
学務課 理工学部担当（学生センターA棟④番窓口）		

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行するという未曾有の状況のなか、本学部では昨年度に引き続き対象学生を限定しインターンシップ事業を実施することとなりました。大幅に規模を縮小しての実施となりましたが、例年行っている事前指導に加え、感染拡大防止等に関わる指導も行いながら、10名の学生が無事にインターンシップを終えることができました。

このような状況下で学生をお受け入れ頂いた事業所、ならびに実習の実現には至りませんでした。受入の了承を頂いた事業所の皆様方には深く感謝申し上げます。誠にありがと

うございました。アンケートなどを通して頂戴したご意見は、貴重な資料として来年度の実施に反映させる所存でございます。今後もインターンシップについてのお問い合わせやご意見などをお待ちしておりますので、ご遠慮なくお申し出ください。

なお、下記ページにインターンシップ情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

### ● 掲載URL

<http://www.se.iwate-u.ac.jp/is/>

Thank you...



〒020-8550  
盛岡市上田三丁目18-34  
岩手大学学務部学務課理工学部担当

TEL 019-621-6307  
FAX 019-621-6065  
E-mail grikei@iwate-u.ac.jp

